

埼玉県「地域おこし協力隊・関係人口ミニサミット」議事要旨

(開催要領)

1. 開催日時：令和2年12月18日(金)19:00~21:00
2. 場所：TKP 大宮西口カンファレンスセンター埼玉県
3. 登壇者：
総務省自治行政局 地域力創造グループ 地域自立応援課 課長 角田秀夫
明治大学 教授 小田切徳美
埼玉県横瀬町 まち経営課 田端将伸
総務省 地域おこし協力隊サポートデスク専門相談員 野口拓郎
北海道天塩町 地域おこし協力隊員 久保綾香
長野県豊丘村 地域おこし協力隊員 OG 黒田美佳
茨城県茨城町 地域おこし協力隊員 近藤弘志
北海道天塩町 総務課 企画広報係長 菅原英人
長野県豊丘村 産業建設課 農政係 宮澤貞樹
茨城県茨城町 町長公室 秘書広聴課 営業戦略グループ 主事 内海優子

(プログラム)

1. 施策説明 角田秀夫
2. 基調講演「地域おこし協力隊・関係人口と地域づくり～ポストコロナ社会の下で～新型コロナウイルス感染症収束後の地域おこし協力隊や関係人口と地域づくりについて」 小田切徳美
3. 事例発表 関係人口取組団体による優良事例等の発表 田端将伸
4. トークセッション「地域おこし協力隊としての地域でのチャレンジ」
ファシリテーター 野口拓郎
パネリスト 久保綾香/黒田美佳/近藤弘志
5. 自治体からの活動事例紹介
菅原英人/宮澤貞樹/内海優子
6. 参加者による自治体への質問コーナー

* 敬称略・順不同

1. 施策説明

地域おこし協力隊とは、都市地域から過疎地域等に移住いただき、地方公共団体が地域おこし協力隊として委嘱する事業です。隊員は一定期間地域に居住し、地域おこし活動に携わってもらう取組です。隊員の活動期間は概ね1年以上3年以下です。政府は、地方財政措置

により、地方公共団体を支援しています。地域おこし協力隊の活動に要する経費は、1人当たり440万円を上限に措置します。その他、さまざまな措置で地方公共団体の取組を応援しています。移住まではいかなくとも地域と関わりたいという方々を関係人口と呼びますが、（協力隊の方々は）関係人口の皆さんや地域の方々と一緒に地域おこしをしています。

2. 基調講演「地域おこし協力隊・関係人口と地域づくり～ポストコロナ社会の下で～新型コロナウイルス感染症収束後の地域おこし協力隊や関係人口と地域づくりについて」

活気のある「にぎやかな過疎」の重要なプレーヤーは地域住民や地域コミュニティー、地域で仕事を作ろうとしている移住者です。この中には地域おこし協力隊というプレーヤーと、何か関われないかと動いている関係人口というプレーヤーがいます。この2つのプレーヤーは、まさに「にぎやかな過疎」の担い手であり、「にぎやかな過疎」は地方創生、地域づくりの目標像です。ポストコロナ社会においては、まさにこれを拠点として、地域を再生していくことが求められていると思います。

3. 事例発表 関係人口取組団体による優良事例等の発表 田端将伸

横瀬町は人口8,200人、職員数は90人という地方にある典型的な小さな町です。私たちは地域課題を解決したいチャレンジャーを募集し、応募制として審査会を開催しました。チャレンジャーの方のやりたいことが町のメリットにつながれば、どんな事業・プロジェクトでも応募可能です。結果として約4年間で150近い提案があり、そのうち半分以上の82のプロジェクトが始動しています。課題山積の小さな町に、ワクワクしながらチャレンジする人を積極的に呼び込む仕組みを作り続け、行政としても時代の流れ、社会状況を踏まえつつ、横瀬町自体もチャレンジをし続けていくことが重要だと思っています。

4. トークセッション「地域おこし協力隊としての地域でのチャレンジ」

①久保

北海道天塩町の地域おこし協力隊の久保です。人口3,000人弱の小さな町で、酪農と漁業が盛んです。移住前は海外開発コンサルタントとして、アフリカの開発途上国を支援する仕事に従事していました。前職での経験を生かして、天塩町では海外に関連する業務や、SNSでの情報発信、その他さまざまな業務に携わっております。地域おこし協力隊の方向けの研修会などを定期的には実施していましたが、コロナの影響もあり、オンラインでのセミナーや地域の方を取材して、それを動画にまとめて発表するなどの取り組みをしていました。

②黒田

長野県豊丘村の黒田美佳です。2013年に豊丘村の地域おこし協力隊として着任しました。4年前に協力隊を退任した後、2016年6月から、村内に喫茶enという飲食店を開き、現在5年目になります。田舎暮らしに憧れていましたが、当時まだ車を持っていなかったの、

車がなくても住める田舎ということで豊丘村を選びました。豊丘村は果樹が有名ですが、桃、リンゴ、ナシ、イチゴ、たいていのものが村で採れるところも、移住の魅力でした。協力隊時代には行政に求められることを受け入れて、ひたすらやり切った3年間でした。

③近藤

茨城県茨城町地域おこし協力隊の近藤です。主な活動である場づくりの一環として運営している Koco・de は、地域内外、子どもからお年寄りまで多世代、誰でも利用できる自由な場所です。もう一つ、地域づくりを学ぶための「さと学」という講座の企画や設計にも取り組んでいます。元々、人が集う場づくりがしたくて探していたところ、この町ならそれができると思ったので、茨城町を選びました。昨年 Koco・de でクリスマスイベントを催した結果、普段の利用者が1日約10、15人ですが、その日は60人に利用してもらいました。

5. 自治体からの活動事例紹介

①北海道天塩町 菅原英人

私自身、8年前に神奈川県横浜市から地域おこし協力隊として移住しました。

地域おこし協力隊の取り組みは2012年から実施しており、これまで累計17人が首都圏や札幌から移住されて着任しました。任期終了した14名のうち約6割の8名がそのまま地域に定住しています。地元の企業への就職をした方や、公設民営塾を開業されている方がいます。現在、現役協力隊が3名在籍しており、20代男子1名と30代女子、先ほどの久保さんと、60代の男性1名の3名です。国際交流、情報発信、インバウンド、観光振興の分野を2名が担当し、もう1人が道の駅の活性化担当です。

②長野県豊丘村 宮澤貞樹

当村では12月現在で、嘱託型協力隊員として8名、起業型協力隊員として2名、合計10名の方が豊丘村地域おこし協力隊員として活動しています。

嘱託型協力隊員は、地域おこしの提案及び実践、地域自主組織との連携及び協力、住民の生活支援、地域活動への参加及び企画実践活動、その他目的達成に資する活動に従事しています。起業型協力隊員については、村の課題を解決し得る仕事の発掘及び実証に関する活動をされています。

③茨城県茨城町 内海優子

ラムサール条約登録湿地涸沼(ひぬま)をはじめとする水と緑の豊かな自然環境だけでなく、茨城中央工業団地や、町内3つのインターチェンジによる交通の便の良さ、県庁所在地水戸市への近さなど、生活環境にも恵まれています。基幹産業は農業で、温暖な気候に恵まれ、お米、メロン、イチゴなど、年間を通してさまざまな農作物を栽培・収穫できます。現在、隊員は3名で、小鶴区という地区で空き店舗を活用し、地域の居場所 Koco・de を運営

や SNS やポスター、パンフレット制作などにより、町の魅力発信を行っています。お出掛け先や移住先として、茨城町に興味を持っていただければ嬉しいです。

6. 参加者による自治体への質問コーナー

【質問】活動中、困ったときの相談先など、どうすればいいのでしょうか。

【回答：久保】

自分の任地の市町村の協力隊、任地外の協力隊、サポートデスクがあると思います。例えば業務の方向性や内容、地域おこし協力隊の制度、お金関係のことを、まずは担当者の方に相談してください。

【質問】協力隊活動を通して、地域の変化は具体的にどのようなものがありますか。

【回答：黒田】

村では「誰？」と聞かれることもありましたが、全く違った文化同士がぶつかったときに、町や村は繁栄するというのは、時代の流れにも合った理解だと思えます。協力隊はまさに新しい風だったり、新しい文化だったり、価値観というものを運んでくると非常に強く感じています。

【質問】行政の方と仕事をしたことがないため不安です。そのような場合でも大丈夫ですか。

【回答：近藤】

分からないこと、不安なことがあれば、担当職員に聞いてみるのが一番です。職員さんによって仕事の進め方が異なることもあります。買い物や病院はどこに行ったらいいのかフランクに聞いてみて、関係性を築いていければいいと思います。

以上